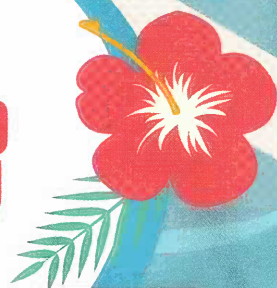


#劇団民藝



夏 STAFF ワーク ショップ



普段は入れない稽古場で
大道具の仕事を体験!
自由研究にも!

2025年
8/9(土), 10(日)

ドアや壁を立てて
舞台セットをつくってみよう!



- 場所 劇団民藝 稽古場(川崎市麻生区黒川649-1)
京王相模原線若葉台駅徒歩5分・小田急多摩線黒川駅徒歩8分
- 時間 両日13:00~16:30まで
- 参加費 1名 ¥1,000(当日受付精算)
- 対象年齢 12歳~25歳までの両日とも参加いただける方(保護者同伴可)
- 定員 10名(応募者多数の場合抽選)
- 持ち物 軍手・作業用の上履き(底を洗ったスニーカーなど)
- お申込み 7/9(水)から7/31(木)まで受付
下記メールアドレスにお名前・ご住所・電話番号・年齢をお送りください。件名は「夏WS参加希望」としてください。
※定員に満たない場合、締切後も受け付けます
※応募者全員に抽選結果をメールで返信します
※イベント保険(参加料に含まれる)に加入いたします
Mail: seisaku@gekidanmingei.co.jp



川崎市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



劇団民藝HP



お問合せ: 劇団民藝 044-987-7711(担当 上本)

このワークショップでは、普段入ることのできない劇団の稽古場で、スタッフワークを体験します。

力を合わせてドアや壁を立て、家具を置いて舞台セットをつくってみましょう！当日は普段プロの演劇の現場で活躍する演出部に所属する劇団員がサポート。演劇の裏側、のぞけるチャンスです。



劇団民藝とは？

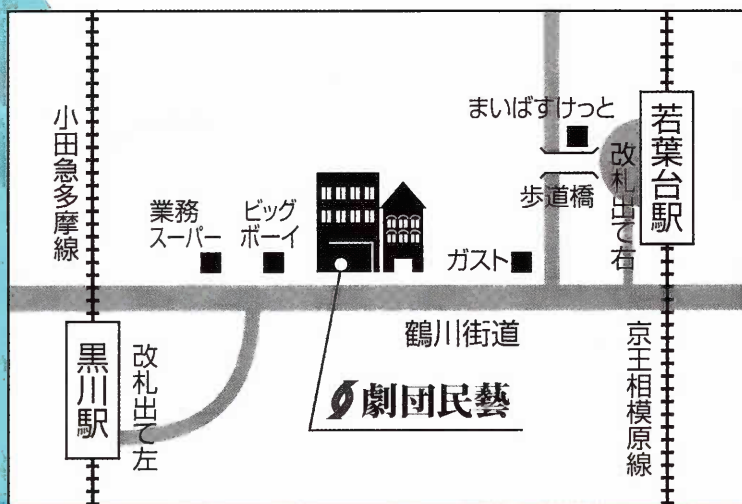
劇団民藝は1950年に「多くの人々の生きてゆく歓びと励みになるような」民衆に根ざした演劇芸術をつくり出そうと「新劇」の本流を歩んできた創設者によって旗あげされました。滝沢修、宇野重吉、大滝秀治、奈良岡朋子、榎山文枝、日色ともゑらが活躍。東京公演は年間4作品をラインナップし、全国で年間約160ステージを上演。この稽古場から全国へお芝居をお届けしています。



What's 「新劇」？

明治末期、それまで日本で上演されてきた古典的な歌舞伎などに対し、新しい西洋の近代演劇の上演に取り組み、その普及に努めたことから「新劇」と呼ばれた。

個人の自由と芸術性を志向する特徴がある。現代演劇の一ジャンルとして定着したが、民藝のほかにも文学座、俳優座、青年座など様々な劇団が、その伝統を受け継いでいる。



SNS更新中！

公式X

インスタ

Youtube



せん ねん げき だん みん けい
戦後80年 劇団民藝の

平和歩むおはなし会



「二度と、絶対に戦争をしてはダメ。」
先輩たちの言葉を未来に引き継ぐために…
劇団民藝の役者たちによる、読み聞かせ、紙芝居、朗読をお聞きください。



日時 8月29日(金)

13:00~14:00 こどもの部 (小学校中学年以上対象)

14:30~16:00 おとなの部 (高校生以上対象)

各部定員40名。どなたでもご希望の部、もしくは両方をごらんいただけます。
お申込み時にご希望をお伝え下さい。(両方の場合も料金は変わりません。)

★別室になりますが小さなお子さまと保護者の方が一緒にお待ちいただける
保育室がございます。休憩室としてご利用いただけます。

場所 稲城市立iプラザ 2F 大会議室 (京王相模原線 若葉台駅徒歩2分)

入場料 小中高生 500円 大人 1500円

お申し込みはメールかお電話で

電話 044-987-7711 (劇団民藝) メール mingei.ohanashi@gmail.com



ふなさかひろこ



ふじまきも



しんざわいずみ



いまむらさほ



もりたさきこ



ひらのなお



かしおまりあ



ささきいくみ



はなしろたいしん

作＝アーサー・ミラー

訳＝丹野郁弓

演出＝小笠原響

装置＝深川絵美

照明＝前田照夫

衣裳＝松本昌子

効果＝岩田直行

劇団民藝公演
KEIKOBA

記憶の 危うさに ついて

第一部

『だって何も思い出せない』

“I Can't Remember Anything”

日色ともゑ／小杉勇二

第二部

『クララ』

“Clara”

横島 亘／吉岡扶敏

小守航平／金井由妃

2025年
7月27日[日]



8月7日[木]

劇団民藝稽古場

後援＝川崎市麻生区

NPO法人しんゆり・
芸術のまちづくり



Design: Taro Matsuyoshi

by
Arthur
Miller

記憶の 危うさについて

作=アーサー・ミラー 訳=丹野郁弓
演出=小笠原響

劇団民藝公演
KEIKOBA

『だって何も思い出せない』

年老いた未亡人レオノーラは夫の親友だったレオの家を毎日のように訪ねてくる。ライフスタイルも政治的信条もまるで違う二人はぶつかり合うばかりだが、さりとして他に頼る人間もいない。いろいろな記憶が失われていく今、二人は残された日々を……。

『クラーラ』

娘のクラーラが殺害された。父親のクロールは刑事ファインに事情を聞かれている。娘が何故、誰に殺害されたのか謎は解けないのだが、刑事の追及を受ける内に忘れ去った出来事が不意によみがえる。過去が現在を照らし出し、封じ込めていたクロールの良心が……。

民藝ではこれまでアーサー・ミラーの作品を1954年『セールスマンの死』にはじまり『橋からの眺め』(60年)『るつぼ』(62年)『ヴィシーでの出来事』(67年)『みんな我が子』(70年)『転落ののちに』(86年)『壊れたガラス』(96年)『大司教の天井』(99年)『プライス』(2008年)と上演してきました。

一幕劇二本で構成された『記憶の危うさについて』は、アーサー・ミラーの晩年、1987年に発表されました。二作はきわめて対照的でありながら「記憶」というキーワードで貫かれている点で一対を成しています。実験的な試みとなる稽古場での上演にどうぞ期待ください。

第一部『だって何も思い出せない』



レオノーラ:日色ともゑ



レオ:小杉勇二

第二部『クラーラ』



クロール:横島 亘



ファイン:吉岡扶敏



ティアニー:小守航平



クラーラ:金井由妃

2025年7月27日[日]—8月7日[木]

	7/27 [日]	28 [月]	29 [火]	30 [水]	31 [木]	8/1 [金]	2 [土]	3 [日]	4 [月]	5 [火]	6 [水]	7 [木]
13:30	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○
19:00		○				○						

【入場料金】[全席指定・税込み]

一般:5,500円 / 「民藝の仲間」会員・川崎市在住割引:5,000円

バリアフリー割引:5,000円 [付添者1名無料]

U30(30歳以下):3,500円 [1公演5枚まで] ※ルーキーシートあり [1公演5枚まで]

【お申し込み・お問い合わせ】劇団民藝=044(987)7711 [月~土10時~18時]

【バリアフリー観劇情報】[ご利用の際は必ず事前にご連絡ください]

※バリアフリー割引あります。※点字チラシ承ります。

※聴覚障がい者対象・台本事前貸出申込先 Fax=044(986)0034

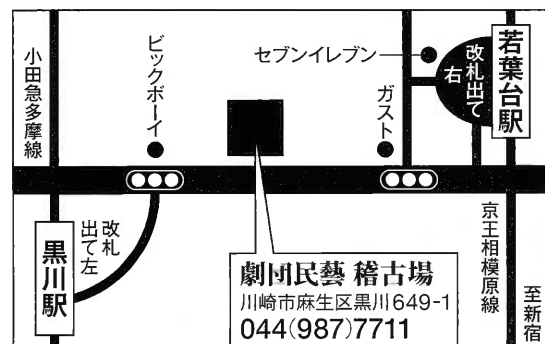
E-mail=seisaku@gekidanmingei.co.jp(当日受付でも筆談対応可能)⇒詳細はHPで

※受付は1時間前からです。

黒川 | 劇団民藝稽古場

一般前売開始=6月18日[水]

「民藝の仲間」会員先行予約=6月11日[水]



京王線「調布」で(橋本行)に乗り換え「若葉台」下車徒歩5分
小田急線「新百合ヶ丘」で(唐木田行)に乗り換え「黒川」下車徒歩8分
※駐車場がございません。電車をご利用ください。